

ON THE KEYBOARD

By Sanjeev Sinha

No. 8



サンジーヴ・シンハ
1973年インド・ラジャスターン州生まれ。インド工科大学で物理学修士課程と金融の修士課程を修了。人工知能研究のため1996年来日。証券会社の数社に勤務後、現在、ブライスウォーターハウスクーパース株式会社ディレクターとして、日本とインドのビジネスの橋渡しに従事。英・日・ヒンディー語を駆使して、様々な異文化交流に尽力している。主な著書に「すごいインドーなぜグローバル人材が輩出するのか」（新潮新書）がある。

For Personal Use

Foreign students: A resource often wasted by corporate Japan

As an adviser to Kyoto University, I have chances to interact with foreign students in Japan. It's nice to see young students learning about Japan while pursuing their studies in specific fields.

However, foreign students graduating with degrees don't seem to be fully utilized here, and some of them, disappointed, leave Japan. On closer look, I noticed some problems in landing satisfactory jobs at Japanese companies.

Foreign students are required to go through *shukatsu* job-hunting with their Japanese counterparts. During the lump-hiring of new graduates, their Japanese language skills are tested.

One of the highest hurdles they have to clear is this linguistic proficiency. As is often the case, some companies demand exceptionally high Japanese language ability. Such requirements drive away foreign students who have difficulty in the level of fluency but can potentially bring about huge

benefits with their expertise.

A lack of clear-cut career vision also prevents foreign students from staying in Japan as they are not sure how they will climb internal promotion ladders. The fact that companies do not provide seminars to assist foreign students to cope with corporate culture gaps is another problem.

The government and top executives in strategic positions are eager to attract highly skilled international students to boost Japan's global competitiveness.

As many domestic companies are looking for employees who can contribute to their global expansion, foreign students in Japan should be ideal candidates.

I hope more opportunities will be created so that foreign students can connect more effectively with Japanese firms and contribute in a win-win manner.

pursue(-ing) ～を追求する	(仕事を) 見つける、ものにする	lump-hiring... graduate(s) 新卒の一括採用	大抵の場合、よくあることだが	clear-cut 明快な、分かりやすい	戦略的な、きわめて重要な
(be) utilized 活用される、利用される	counterpart(s) (異なる組織で) 同等の人。ここでは日本人学生のこと	drive away ～を排除する		cope with (問題などに) 立ち向かう	win-win 双方にメリットのある
land(ing)		linguistic proficiency 語学力		expertise 専門知識・技術	
		As...case		strategic	

紙面から音声

このコーナーは、スマホやタブレットで英文音声を読めます。無料アプリ「朝日コネクト」をインストール。起動したら、日付選択で発行日(11月22日)に合わせ、英文の先頭にかざしてください。ダブルタップで全画面表示。詳細は <http://t.asahi.com/connect> へ。

App Store
からダウンロード

Google play
で手に入れよう

対訳 日本は、外国人留学生をもっと生かすべきです

京都大学のアドバイザーとして、日本にいる留学生と交流する機会があります。若い学生たちが日本に親しみながら、専門分野の勉強を続けている様子を見るのはうれしいものです。

ところが、学位を取って卒業した留学生は、ここ(日本)では十分に活用されているようには思えません。そして彼らの一部は、失望して日本を離れてしまいます。より詳しく見てみると、日本企業で納得のいく仕事を見つける上での、いくつかの問題点に気づきました。

留学生は、日本の学生と共に就活をくりぬけなければなりません。新卒をまとめて採用するこのやり方では、彼らの日本語力が試されます。

彼らが乗り越えなければいけない最も高いハードルの一つが、語学力なのです。よくあることですが、企業によっては非常に高い日本語力を要求します。こうした要求は、流暢(りゅうちょう)さの度合いでは難があっても、専門知識の面で大きな利益

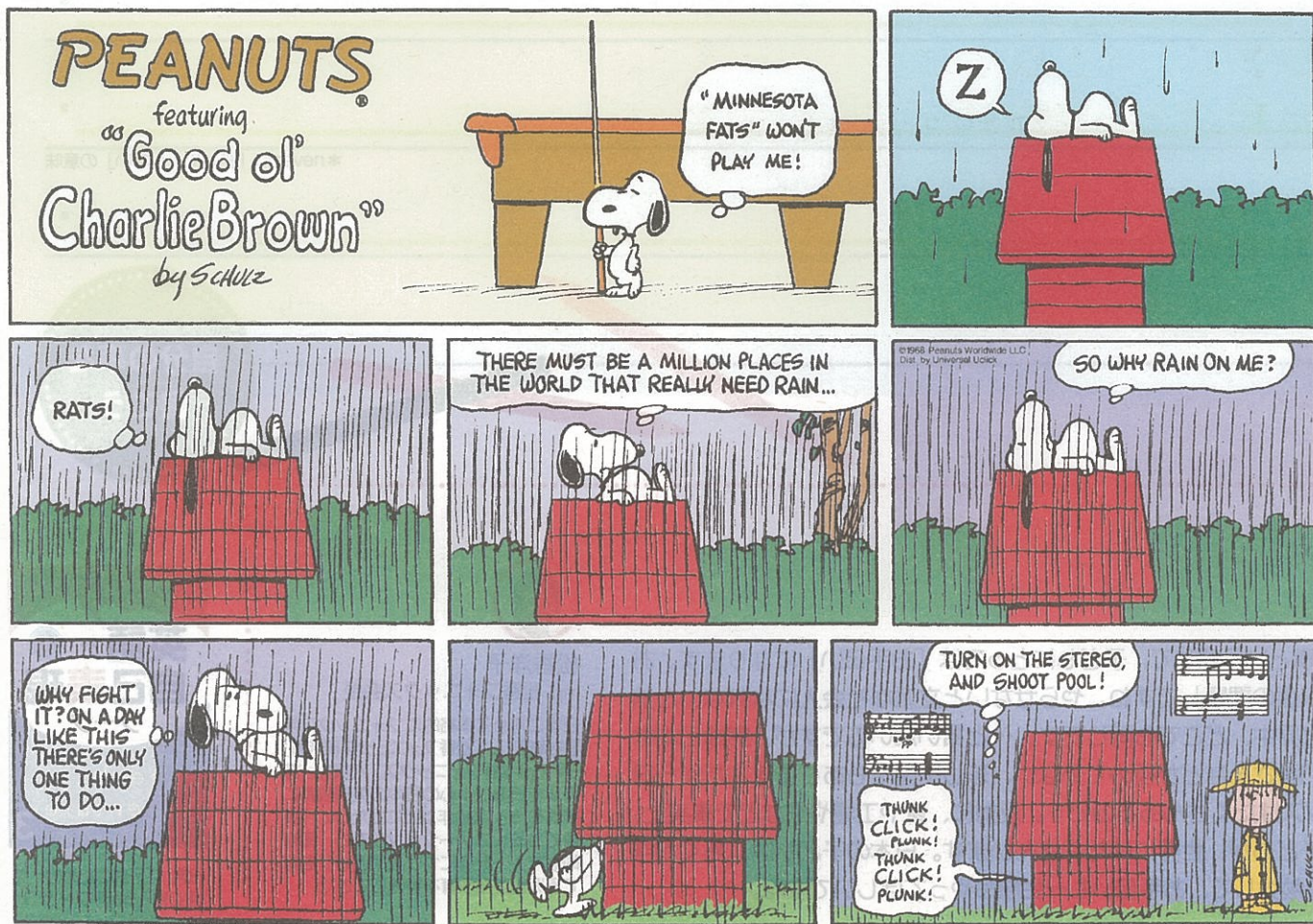
をもたらしうる留学生を、遠ざけてしまいます。

明快なキャリア展望を示してあげられないことも、留学生が日本にとどまることへの障害となります。自分たちが、企業内で昇進の階段をどう上っていくのか、確信がないためです。

会社が、企業文化の違いに対処しようとする留学生を支援するセミナーを開催しないことも、もう一つの問題点です。

政府や、企業の要職にあるトップたちは、日本の国際競争力を高めるために、高度な技能を持つ外国人の学生の受け入れに熱心です。多くの日本企業が、グローバル展開に貢献できる社員を求めているなかで、日本にいる留学生は、理想的な候補であるはずです。

私は、留学生が日本企業とより効率的に出会うことができ、双方に利益がある形で貢献できるように、より多くの機会がつけられることを願っています。(訳 井手和子)



雨の日

[左コマから右へ]

- 「ミネソタ・ファッツ*」がボクと試合しようとしな!
- グウ
- (なんだよ!)
- (世の中にはもっと雨を必要としている場所が、数え切れないほどあるだろうに...)
- (なんでボクに降って来なきゃなんないのさ?)
- (無理することなんかないな。こんな日にすることは、一つしかない...)
- ...
- (音楽をかけて、ビリヤードだ!) ドン、カチッ! コン! ドン、カチッ! コン!

(訳: 夕)

*ニューヨーク出身の、伝説のビリヤードプレーヤー。Rudolf Wanderone (1913-1996) の別名のー